

HP OMi Management Pack for Infrastructure

ソフトウェアバージョン: 1.10

HP Operations Manager i (Linux および Windows® オペレーティング システム)

インストールガイド

ドキュメントリリース日: 2015 年 1 月

ソフトウェアリリース日: 2014 年 2 月



ご注意

保証

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR 12.211 および 12.212 の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2014-2015 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe® は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft® および Windows® は、Microsoft グループの米国における登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。<https://softwaresupport.hp.com/group/softwaresupport/search-result?keyword=>

このサイトを利用するには、HP Passport のアカウントが必要です。アカウントをお持ちでない場合は、HP Passport のサインイン ページで **[アカウントを作成してください]** ボタンをクリックしてください。

サポート

次の HP ソフトウェアサポートの Web サイトを参照してください。<https://softwaresupport.hp.com>

このサイトでは、HP のお客様窓口のほか、HP ソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HP ソフトウェア サポート オンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HP ソフトウェアサポートの Web サイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passport ユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport ID を登録するには、<https://softwaresupport.hp.com> にアクセスして **[Register]** をクリックしてください。

アクセスレベルの詳細については、次の Web サイトをご覧ください。<https://softwaresupport.hp.com/web/softwaresupport/access-levels>

HP Software Solutions & Integrations and Best Practices

HP Software Solutions Now (<https://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>) を参照してください。このサイトでは、HP ソフトウェアのカタログに記載された製品の説明を確認したり、情報を交換したり、ビジネス ニーズを解決することができます。

Cross Portfolio Best Practices Library (<https://hpln.hp.com/group/best-practices-hpsw>) からは、さまざまな ベスト プラクティス文書や資料にアクセスすることができます。

目次

第1章: はじめに	6
このマニュアルで使われている略語	6
関連ドキュメント	7
ライセンス	7
第2章: OMi MP for Infrastructure のインストール	8
インストールメディア	8
インストールの前提条件	9
ハードウェア要件	9
ソフトウェア要件	9
BSM サーバでのソフトウェア要件	9
OMi サーバでのソフトウェア要件	10
インストール時のチェックリスト	10
BSM サーバ用チェックリスト	10
OMi サーバ用チェックリスト	11
OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 からバージョン 1.10 への移行	12
タスク 1: インフラストラクチャ管理テンプレートまたはアスペクトの割り当ての削除	12
タスク 2: 失敗したデプロイメントジョブの削除	12
タスク 3: インフラストラクチャアスペクトへの参照の削除	13
タスク 4: インフラストラクチャ管理フォルダおよびサブフォルダの削除	13
タスク 5: クリーンアップスクリプトを実行して、OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 のコンポーネントを削除します。	14
タスク 6: クリーンアップの確認	15
その他の BSM DPS 更新の BSM 9.23 へのインストール	15
BSM または OMi での OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール	17
Linux BSM または OMi サーバの場合	17
Windows BSM または OMi サーバの場合	19
Operations Orchestration (OO) フローのインストール	21
OO フローのアップロード	22
OMi MP for Infrastructure のインストールの確認	22
第3章: 作業の開始	24
BSM コンソールでの作業の開始	24
タスク 1: BSM コンソールへのノードの追加	24
タスク 2: インフラストラクチャ検出アスペクトのデプロイ	24
タスク 3: 検出の確認	26
タスク 4: インフラストラクチャ管理テンプレートおよびインフラストラクチャ検出アスペクトの デプロイ	26

タスク 4a: インフラストラクチャ管理テンプレートの特 定とデプロイ	26
タスク 4b: インフラストラクチャアスペクトのデプロイ	27
OMi コンソールでの作業の開始	28
タスク 1: OMi コンソールへのノードの追加	29
タスク 2: インフラストラクチャ検出アスペクトのデプロイ	29
タスク 3: 検出の確認	30
タスク 4: インフラストラクチャ管理テンプレートおよびインフラストラクチャ検出アスペクトの デプロイ	31
タスク 4a: インフラストラクチャ管理テンプレートの特 定とデプロイ	31
タスク 4b: インフラストラクチャアスペクトのデプロイ	32
第4章: OMi MP for Infrastructure を使った監視	34
ドキュメントのフィードバックを送信	37

第1章: はじめに

HP OMi Management Pack for Infrastructure (OMi MP for Infrastructure) は HP Operation Managers i (OMi) と連携し、データセンター環境で稼働するさまざまなシステムを監視します。OMi MP for Infrastructure は、システム内で発生するイベントの分析と分類を行い、システムの状況ステータスをレポートする各種インジケータ (状況インジケータ (HI)、イベントタイプインジケータ (ETI)、および相関ルール) を備えています。また、個々のシステム、クラスタ、仮想ノードの可用性、状態、パフォーマンスを監視する管理テンプレートも付属しています。

OMi MP for Infrastructure には、データセンター環境におけるシステムの正常性とステータスを監視するための以下のコンポーネントが含まれています。

- インフラストラクチャ管理テンプレート
- インフラストラクチャのAspect およびポリシーテンプレート
- パラメータ
- 構成アイテム (CI) と CI タイプ (CIT)
- ランタイム サービス モデル (RTSM) のビュー
- 状況インジケータ (HI) とイベントタイプインジケータ (ETI)
- トポロジベースのイベント相関処理 (TBEC) ルール
- Operations Orchestration フロー
- ツール
- グラフテンプレート

注: コンポーネントの詳細は、OMi Management Pack for Infrastructure のオンラインヘルプまたはオンラインヘルプのPDF版を参照してください。

このマニュアルで使われている略語

名称	説明
BSM	Business Service Management
OMi	HP Operations Manager i
RTSM	ランタイム サービス モデル

名称	説明
MPDVD	OMi Management Pack for Infrastructure DVD
BSM DPS	BSM データ処理 サーバ
BSM GWS	BSM ゲートウェイ サーバ
OMi MP	HP OMi Management Pack
OMi MP for Infrastructure	HP OMi Management Pack for Infrastructure

関連ドキュメント

BSM および Monitoring Automation についての詳細は、BSM マニュアルを参照してください。

OMi についての詳細は、次のドキュメントを参照してください。

OMi MP for Infrastructure の詳細は、次のドキュメントを参照してください。

- リリースノート
- オンラインヘルプのPDF版

ライセンス

OMi MP for Infrastructure には、個別のライセンスは必要ありません。Monitoring Automation のライセンスオプションの詳細については、『Monitoring Automation インストールガイド』の「Monitoring Automation のライセンスオプション」を参照してください。

第2章: OMi MP for Infrastructure のインストール



この項では、BSM サーバ(Linux and Windows) および OMi サーバ(Linux and Windows) での OMi MP for Infrastructure のインストールについて説明します。

インストールメディア

この項では、OMi MP for Infrastructure のインストールメディアについて説明します。OMi MP for Infrastructure は OMi MP for Infrastructure DVD (MPDVD) および電子メディアに収録されています。MPDVD および電子メディアは、英語および英語以外のロケール環境に対応しています。ロケール要件に基づき、適切なインストールメディアを使用できます。

OMi MP for Infrastructure DVD および電子メディアには、ソフトウェアおよび製品マニュアルが収録されています。分散環境では、すべての BSM データ処理サーバ(BSM DPS) とゲートウェイサーバ(BSM GWS) にインストールする必要があります。

次の表に、MPDVD と電子メディアに収録されているドキュメントの情報を記します。

ドキュメント	場所	目的
オンライン ヘルプ	BSM コンソールの [ヘルプ] メニューで利用できます。 BSM コンソールから、 [ヘルプ] > [BSM ヘルプ] > [Application Administration] > [Operations Management] > [OMi Management Pack for Infrastructure] に移動します。 OMi コンソールの  メニューから使用可能。 OMi コンソールから、  >[全般的なヘルプ] > [管理ガイド] > [管理パック] > [OMi Management Pack for Infrastructure] に移動します。	次の情報を提供します。 <ul style="list-style-type: none">管理テンプレートの使用アスペクトおよびポリシーテンプレートの使用HI と ETI の各インジケータおよび TBEC ルールの使用
インストールガイド	<MPDVD>\DOCUMENTATION\en	
オンライン ヘルプの PDF 版	<MPDVD>\DOCUMENTATION\en	
リリースノート	<MPDVD>\DOCUMENTATION\en	次の情報を提供します。 <ul style="list-style-type: none">主要な機能インストールについて

インストールの前提条件

以下の項では、BSM (Linux および Windows) サーバおよび OMi (Linux および Windows) サーバでの OMi MP for Infrastructure のインストールに関するハードウェアおよびソフトウェアの前提条件を一覧表示します。

ハードウェア要件

特定のハードウェア要件については、『BSM インストールガイド』を参照してください。

ソフトウェア要件

OMi MP for Infrastructure を BSM サーバ (Windows または Linux) にインストールするためのソフトウェア要件の詳細は、「[BSM サーバでのソフトウェア要件](#)」を参照してください。

OMi MP for Infrastructure を OMi サーバ (Windows または Linux) にインストールするためのソフトウェア要件の詳細は、「[OMi サーバでのソフトウェア要件](#)」を参照してください。

BSM サーバでのソフトウェア要件

OMi MP for Infrastructure 1.10 をインストールする前に、BSM サーバへ以下のコンポーネントをインストールし、構成する必要があります。

BSM サーバ

コンポーネント	バージョン
BSM	9.23 以降*
HP OMi	9.23 以降*
HP Monitoring Automation	9.23 以降*

* サポートされている最新バージョンについては、サポート マトリックスを参照してください。

注: 大規模環境では、BSM 9.24 の使用をお勧めします。

管理対象ノード

コンポーネント	バージョン
Operations Agent	11.13 以降*

* サポートされている最新バージョンについては、サポート マトリックスを参照してください。

OMi サーバでのソフトウェア要件

OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 をインストールする前に、OMi サーバへ以下のコンポーネントをインストールし、構成する必要があります。

OMi サーバ

コンポーネント	バージョン
HP Operations Manager i	9.23 以降*
OMi MP for Infrastructure	1.10

注: 大規模環境では、BSM 9.24 以降を使用することをお勧めします。

管理ノード

コンポーネント	バージョン
HP Operations Agent	11.12 以降*

インストール時のチェックリスト

OMi MP for Infrastructure のインストールでは、次の表にまとめた手順を指定の順序で事前に実行しておく必要があります。

OMi MP for Infrastructure を BSM サーバにインストールする場合は、「[BSM サーバ用チェックリスト](#)」を参照してください。

OMi MP for Infrastructure を OMi サーバにインストールする場合は、「[OMi サーバ用チェックリスト](#)」を参照してください。

BSM サーバ用チェックリスト

管理対象サーバ

タスク	参照先
BSM のインストールに必要な前提条件のチェック	『BSM インストールガイド』の「一般的な前提条件」を参照してください。
BSM バージョン 9.20 および BSM 9.23 以上の Service Pack のインストール	『BSM インストールガイド』の「BSM 9.20 のインストール」および「最新の BSM 9.2x マイナー マイナーリリースとパッチのインストール」を参照してください。

タスク	参照先
Monitoring Automation バージョン 9.23 以降のインストール	『Monitoring Automation for HP Operations Manager i インストールガイド』の「インストールの前提条件」と「BSM サーバでの Monitoring Automation のインストールと構成」の章を参照してください。
Monitoring Automation のインストールの確認	『Monitoring Automation for HP Operations Manager i インストールガイド』の「Monitoring Automation のインストールの確認と操作」の章を参照してください。
OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 から 1.10 への移行	OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 がすでにインストールされている場合は、「 OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 からバージョン 1.10 への移行 」を参照してください。
その他の BSM DPS 更新のインストール	「 その他の BSM DPS 更新の BSM 9.23 へのインストール 」を参照してください。
OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール	「 BSM または OMi での OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール 」の項を参照してください。

管理対象ノード

タスク	参照先
HP Operations Agent 11.13 のインストール	『HP Operations Agent および HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure インストールガイド』の「Installing the HP Operations agent 11.13 (HP Operations Agent 11.13 のインストール)」を参照してください。

OMi サーバ用 チェックリスト

管理対象サーバ

タスク	参照先
OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 から 1.10 への移行	OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 がすでにインストールされている場合は、「 OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 からバージョン 1.10 への移行 」を参照してください。
OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール	「 BSM または OMi での OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール 」の項を参照してください。

管理対象ノード

タスク	参照先
HP Operations Agent 11.13 のインストール	『HP Operations Agent および HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure インストールガイド』の「Installing the HP Operations agent 11.13 (HP Operations Agent 11.13 のインストール)」を参照してください。

OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 からバージョン 1.10 への移行

OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 をインストールする前に、OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 を削除しておく必要があります。この項では、OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 の削除について説明します。次の手順は、OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 にのみ必要で、これより上のバージョンには必要ありません。

OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 を削除するには、次のタスクを実行する必要があります。


タスク 1: インフラストラクチャ管理テンプレートまたはアスペクトの割り当ての削除

インフラストラクチャ管理テンプレートまたはアスペクトの割り当てを削除するには、以下の手順を実行します。

- [管理テンプレートおよびアスペクト] を開きます。
BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [割り当ておよび調整] をクリックします。
OMi では、[管理] > [監視] > [割り当ておよび調整] をクリックします。
- [ビューの参照] タブで、HACluster_Infrastructure、Sol_Zones_Infrastructure、または Systems_Infrastructure ビューを選択し、そのビューに関連付けられた CI を表示します。
- 各 CI に割り当てられた インフラストラクチャ管理テンプレートまたはインフラストラクチャアスペクトを削除します。

タスク 2: 失敗したデプロイメント ジョブの削除

失敗したデプロイメント ジョブがあれば、次の手順を実行してそれらのジョブを削除する必要があります。

- [デプロイメント ジョブ] ペインを開きます。
BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [デプロイメント ジョブ] をクリックします。
OMi では、[管理] > [監視] > [デプロイメント ジョブ] をクリックします。
- 失敗したデプロイメント ジョブを選択し、 をクリックします。

タスク3: インフラストラクチャアスペクトへの参照の削除

インフラストラクチャアスペクトが、ユーザが作成した管理テンプレートまたはアスペクトによって使用されている場合は、ユーザが作成した管理テンプレートまたはアスペクトを編集してアスペクトへの参照を削除してから、アスペクトを削除します。

ユーザが作成したアスペクトを編集して、別のアスペクトにネストされたインフラストラクチャアスペクトを削除できます。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト]を開きます。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]をクリックします。

OMi では、[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト]をクリックします。

2. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインで、ユーザが作成した管理テンプレートまたは参照されているインフラストラクチャアスペクトを編集します。

注: デフォルトでは、OMi Management Pack はインフラストラクチャアスペクトへの参照を含みます。それらを編集して、インフラストラクチャアスペクトへの参照を削除することで、新しいバージョンを作成できます。インフラストラクチャアスペクトへの参照が含まれる前のバージョンの管理テンプレートを削除する必要があります。

注: **Monitoring Automation for Composite Applications** ライセンスを所有していない場合、管理テンプレートにはアクセスできません。この場合、管理テンプレートの空のフォルダを選択して、それらを削除できます。利用可能な場合は、以下のフォルダを削除します。

- Oracle 管理テンプレート
- Vertica 管理テンプレート
- Hadoop 管理テンプレート

タスク4: インフラストラクチャ管理フォルダおよびサブフォルダの削除

インフラストラクチャ管理フォルダおよびサブフォルダを削除するには、次の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト]を開きます。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]をクリックします。

OMi では、[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト]をクリックします。

2. [構成フォルダ] ペインで、[構成フォルダ] > [インフラストラクチャ管理] をクリックします。
3. 右クリックして、インフラストラクチャ管理 フォルダを削除します。

注: インフラストラクチャ管理フォルダを削除したときにエラーが表示される場合は、一部の割り当てまたは参照が残っています。以下に、エラーメッセージの例と、必要なアクションを示します。

例 1) いずれかの OMi MP for Infrastructure アスペクトまたは管理テンプレートがいずれかの CI に割り当てられている場合:

アスペクト バージョン "CPU Performance 1.0" (ID: 40571dce-c92a-9923-7db0-25eb3595a13d) を削除できません。まだ CI "<CI の名前>" (ID: 337244a5137b2bfc8588508a9ea45ca9) に割り当てられています。

インフラストラクチャアスペクトまたは管理テンプレートの割り当てを削除する方法の詳細は、「[タスク 1: インフラストラクチャ管理テンプレートまたはアスペクトの割り当ての削除](#)」を参照してください。

例 2) いずれかの OMi MP for Infrastructure アスペクトが他のアスペクトまたは管理テンプレートによって参照されている場合:

アスペクト バージョン "Bandwidth Utilization and Network IOPS 1.0" (ID: f09f8a2f-320b-bdf9-e016-2600d08bd36a) は、管理テンプレート バージョン "Essential Hadoop Management Template 1.0" (ID: f21deb26-1ddf-8e6b-ecb4-ac331db4c963) に属しているため、削除できません

インフラストラクチャアスペクトの参照を削除する方法の詳細は、「[タスク 3: インフラストラクチャアスペクトへの参照の削除](#)」を参照してください。

インフラストラクチャフォルダが正常に削除されるまで、次の手順を実行してください。

タスク 5: クリーンアップスクリプトを実行して、OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 のコンポーネントを削除します。

ヒント: 以下の手順に進む前に、インフラストラクチャ管理フォルダが削除されたことを確認してください。

OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 をクリーンアップするには、次の手順を実行します。

注: BSM 分散環境では、BSM DPS でのみ次の手順を実行する必要があります。

1. OMi MP for Infrastructure 1.10 DVD をマウントします。
2. <DVD folder>\cleanMP1.0 に移動します。
3. 次のスクリプトを実行して、OMi MP for Infrastructure コンポーネントをクリーンアップします。

Linux の場合: ./cleanMP.sh Infra <BSM ユーザ名> <BSM パスワード>

Windows の場合: cleanMP.bat Infra <BSM ユーザ名> <BSM パスワード>

タスク 6: クリーンアップの確認

クリーンアップを確認するには、以下の手順を実行します。

1. ポリシーテンプレートを開きます。

BSM では、**[管理]** > **[オペレーション管理]** > **[モニタリング]** > **[ポリシー テンプレート]** をクリックします。

OMi では、**[管理]** > **[監視]** > **[ポリシー テンプレート]** をクリックします。

[ポリシー テンプレート グループ] ペインで、**[タイプ別にグループ化されたテンプレート]** を選択します。

SI-、**VI-**、または **CI-** で始まる名前のポリシー テンプレートを使用しないようにし、さらに **OPC_PERL_INCLUDE_INSTR_DIR** という名前のノード情報ポリシー テンプレートを使用しないようにする必要があります。

2. コンテンツ パックを開きます。

BSM では、**[管理]** > **[モニタリング]** > **[セットアップ]** > **[コンテンツ パック]** をクリックします。

OMi では、**[管理]** > **[セットアップと保守]** > **[コンテンツ パック]** をクリックします。

OMi Management Pack for Infrastructure がリストに表示されないようにする必要があります。

31. **[管理 テンプレート および アスペクト]** を開きます。

BSM では、**[管理]** > **[オペレーション管理]** > **[モニタリング]** > **[管理 テンプレート および アスペクト]** をクリックします。

OMi では、**[管理]** > **[監視]** > **[管理 テンプレート および アスペクト]** をクリックします。

[構成 フォルダ] ペインで、**[構成 フォルダ]** > **[インフラストラクチャ管理]** をクリックします。

インフラストラクチャ管理 フォルダ および その内容 がリストに表示されないようにする必要があります。

その他の BSM DPS 更新の BSM 9.23 へのインストール

OMi MP for Infrastructure をインストールする前に、次の BSM DPS 更新を BSM DPS のみにインストールする必要があります。この更新は MPDVD に収録されています。

注: BSM の一般的なサーバには、この追加の BSM DPS 更新は必要ありません。

注: この更新は BSM 9.23 にのみ必要で、これより上のバージョンには必要ありません。

更新をインストールするには、次の手順を実行します。

Linux 上の BSM DPS の場合:

1. 次のコマンドを実行して `opr-config-content-server.war` のバージョンを確認します。

```
cd /opt/HP/BSM/opr/webapps
```

```
/opt/HP/BSM/opr/support/what.sh ./opr-config-content-server.war
```

バージョンが 09.23.171 の場合は、次の手順を実行します。それ以外の場合は手順をスキップして「[BSM または OMi での OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール](#)」。

2. 以下の手順を実行して、新しい `.war` ファイル `opr-config-content-server.war` を適用します。
 - a. **BSM DPS** を停止します。
 - b. 次のコマンドを使用して、既存の `opr-config-content-server.war` ファイルをバックアップします。

```
mv ./opr-config-content-server.war ./orig_opr-config-content-server.war
```

- c. MPDVD をマウントし、`<MPDVD>/MA_DPS.war/` の `opr-config-content-server.zip` をコピーして、`/opt/HP/BSM/Temp` に置きます。
- d. `.zip` ファイル `opr-config-content-server.zip` を `/opt/HP/BSM/Temp` に解凍します。
- e. 解凍した `opr-config-content-server.war` ファイルを `/opt/HP/BSM/opr/webapps` に移動します。

```
mv /opt/HP/BSM/Temp/opr-config-content-server.war /opt/HP/BSM/opr/webapps
```

- f. 次のコマンドを実行します。

```
/opt/HP/BSM/opr/bin/oprcfg-configuration.sh -setup omi -noGW
```

- g. **BSM** を開始します。

Windows 上の BSM DPS の場合:

1. 次のコマンドを実行してバージョン番号をチェックします。

```
cd %TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

```
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\support\what.vbs opr-config-content-server.war
```

バージョンが 09.23.171 の場合は、次の手順に進みます。それ以外の場合は次の手順をスキップして「[BSM または OMi での OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール](#)」に移動します。

2. 新しい .war ファイル opr-config-content-server.war を適用するため、以下の手順を実行します。

- a. **BSM DPS** を停止します。

- b. 既存の opr-config-content-server.war ファイルをバックアップします。

```
move opr-config-content-server.war orig_opr-config-content-server.war
```

- c. MPDVD をマウントまたは解凍し、<MPDVD>\MA_DPS.war\ から opr-config-content-server.zip をコピーして、%TOPAZ_HOME%\Temp に置きます。

- d. zip ファイル opr-config-content-server.zip を %TOPAZ_HOME%\Temp に解凍します。

- e. 解凍した opr-config-content-server.war ファイルを %TOPAZ_HOME%\Temp から %TOPAZ_HOME%\opr\webapps に移動します。

```
cd %TOPAZ_HOME%\Temp\
```

```
move opr-config-content-server.war %TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

- f. 以下のコマンドを実行します。

```
cd %TOPAZ_HOME%\opr\bin
```

```
cscript /nologo oprcfg-configuration.vbs -setup omi -noGW
```

- g. **BSM** を開始します。

BSM または OMi での OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール

OMi MP for Infrastructure を BSM サーバ (Linux または Windows) または OMi サーバ (Linux または Windows) にインストールするには、MPDVD を使用します。この項では、OMi MP for Infrastructure を BSM サーバまたは OMi サーバにインストールする手順について説明します。

注: BSM 分散環境では、OMi MP for Infrastructure がすべての BSM サーバ (BSM DPS および BSM GWS) にインストールされている必要があります。インストールを進める前に、Monitoring Automation が実行中であることを確認する必要があります。ステータスを確認するには、BSM コンソールにログオンし、[管理] > [セットアップと保守] > [サーバデプロイメント] に移動して、Monitoring Automation が有効かどうかを確認します。

Linux BSM または OMi サーバの場合

OMi MP for Infrastructure を Linux BSM/OMi サーバにインストールするには、以下の手順を実行します。

1. root ユーザとしてログオンします。
2. コマンド `umask 022` を入力して、`umask` を設定します。
3. コマンド `mkdir /<mount_point>` を入力して、DVD または電子メディアをマウントするディレクトリを作成します。

例: `mkdir /dvdrom`

4. DVD をディスクドライブに挿入するか、電子メディアのインストールパッケージをコピーし、次のコマンドを使用してマウントします。

DVD の場合: `mount /dev/<dvdrom_drive_name> /<mount_point>`

電子メディアの場合: `mount -o loop <e-media> /<mount_point>`

5. ディレクトリを `/<mount_point>` に変更します。
6. 次のコマンドを実行します。

```
./mpinstall.sh -i [-h|help]
```

次の表を参照して、ロケールに応じたコマンドを実行します。

DVD	MP ロケールが BSM ロケールと同じ場合	MP ロケールが BSM ロケールと異なる場合
英語の DVD	<code>./mpinstall.sh -i</code>	<code>./mpinstall.sh -i</code>
英語以外の DVD	<code>./mpinstall.sh -i</code>	<code>./mpinstall.sh -i -locale <mplocale></code>

例: BSM が簡体中国語ロケールではない場合に、簡体中国語ロケールで OMi MP for Infrastructure をインストールするには、次のコマンドを指定します。

```
./mpinstall.sh -i -locale zh_CN
```

注: 次のコマンド オプションを使用できます。

```
mpinstall.sh -i [-locale <MP ロケール>] [-h|help]
```

`-i`: Management Pack をインストールします。

`-locale`: インストールするロケール専用の Management Pack。

`-h` | `-help`: ヘルプメッセージを表示します。

`<MP ロケール>` は次のように指定できます。

- zh_CN: 簡体中国語ロケール
- ja: 日本語ロケール
- de: ドイツ語ロケール
- fr: フランス語ロケール
- es: スペイン語ロケール
- ko: 韓国語ロケール
- ru: ロシア語ロケール

注: SSL 構成の場合、OMi MP のインストーラプログラムに `-ssl` オプションが含まれます。

次のコマンドを実行します。

```
ContentManager.bat -l -verbose -username <BSMUsername> -password <BSMPasssword>
-ssl
```

このコマンドを実行すると、証明書を受け入れるように要求するメッセージが表示されます。証明書を受け入れたら、次のコマンドをもう一度実行して、コンテンツパックをインストールします。

```
cscript install.vbs -username <BSMUsername> -password <BSMPasssword> -ssl
```

-BSMusername: OMi Management Pack をコンテンツマネージャにアップロードするためのユーザ名。

-BSMpassword: OMi Management Pack をコンテンツマネージャにアップロードするためのユーザ名に対応するパスワード。

-ssl: SSL を使用して BSM を構成する場合はこのフラグを使用します。

7. エンドユーザ使用許諾契約書 (EULA) に同意する場合は、**Yes** または **Y** と入力します。使用許諾契約書に同意しない場合は、**No** または **N** と入力します。

注: 使用許諾契約書 (EULA) に同意しない場合、OMi MP for Infrastructure はインストールされません。

インストールが完了すると、HP OMi Management Pack for Infrastructure のインストールが終了したことを示すメッセージが表示されます。

Windows BSM または OMi サーバの場合

OMi MP for Infrastructure を Windows BSM または OMi サーバにインストールするには、以下の手順を実行します。x

1. DVD をディスクドライブに挿入するか、電子メディアのインストールパッケージをコピーし、展開します。
2. コマンド プロンプトを開き、<DVD-ROM> または電子メディアのディレクトリに移動して、次のコマンドを実行します。

```
cscript /nologo mpinstall.vbs -i [-locale <mplocale>] [-h|-help]
```

次の表を参照して、ロケールに応じたコマンドを実行します。

DVD	MP ロケールが BSM ロケールと同じ場合	MP ロケールが BSM ロケールと異なる場合
英語の DVD	cscript /nologo mpinstall.vbs -i	cscript /nologo mpinstall.vbs -i
英語以外の DVD	cscript /nologo mpinstall.vbs -i	cscript /nologo mpinstall.vbs -i -locale <MP のロケール>

例: BSM が簡体中国語ロケールではない場合に、簡体中国語ロケールで OMi MP for Infrastructure をインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
cscript /nologo mpinstall.vbs -i -locale zh_CN
```

注: 次のコマンド オプションを使用できます。

```
cscript /nologo mpinstall.vbs -i [-locale <MP ロケール>] [-h|help]
```

-i: Management Pack をインストールします。

-locale: インストールするロケール専用の Management Pack。

-h|-help: ヘルプメッセージを表示します。

<MP ロケール> は次のように指定できます。

- zh_CN: 簡体中国語ロケール
- ja: 日本語ロケール
- de: ドイツ語ロケール
- fr: フランス語ロケール
- es: スペイン語ロケール

- ko: 韓国語 ロケール
- ru: ロシア語 ロケール

注: SSL 構成の場合、OMi Management Pack のインストーラプログラムに `-ssl` オプションが含まれます。

次のコマンドを実行します。

```
ContentManager.bat -l -verbose -username <BSMUsername> -password  
<BSMPasssword> -ssl
```

このコマンドを実行すると、証明書を受け入れるように要求するメッセージが表示されます。証明書を受け入れたら、次のコマンドをもう一度実行して、コンテンツパックをインストールします。

```
cscript install.vbs -username <BSMUsername> -password <BSMPasssword> -ssl
```

-BSMusername: OMi Management Pack をコンテンツ マネージャにアップロードするためのユーザー名。

-BSMpassword: OMi Management Pack をコンテンツ マネージャにアップロードするためのユーザー名に対応するパスワード。

-ssl: SSL を使用して BSM を構成する場合はこのフラグを使用します。

3. エンドユーザー使用許諾契約書 (EULA) に同意する場合は、**Yes** または **Y** と入力します。使用許諾契約書に同意しない場合は、**No** または **N** と入力します。

インストールが完了すると、HP OMi Management Pack for Infrastructure のインストールが終了したことを示すメッセージが表示されます。

Operations Orchestration (OO) フローのインストール

OMi MP for Infrastructure の OO フローでは、IT プロセスの自動化とランブックの自動化が可能です。OO フローの詳細は、Operations Orchestration のドキュメントを参照してください。次の項では、OMi MP for Infrastructure での HP OO Studio (バージョン 9.0x) の OO フローのインストールについて説明します。

注: OMi MP for Infrastructure に付属する OO フローは、HP Operations Manager (HPOM) サーバで管理される Smart Plug-in でアプリケーションを監視するデプロイメント シナリオでのみ使用できます。この場合、OMi MP for Infrastructure に含まれた OO フローを OO サーバにインストールし、OMi-OO 統合を通じて OO フローを起動できます。OMi-OO 統合の詳細は、『BSM - Operations Orchestrations Integration Guide』を参照してください。

OO フローのアップロード

OMi MP for Infrastructure から OO フローをアップロードするには、次の手順を実行します。

1. BSM で次のディレクトリに移動します。

Linux の場合：

```
/opt/HP/BSM/conf/opr/oo
```

Windows の場合：

```
%TOPAZ_HOME%\conf\opr\oo
```

2. **HPOprOOInf90.jar** を、HP OO Studio (バージョン 9.0x) がインストールされているシステムの一時ディレクトリにコピーします。

- Infrastructure 用 **HPOprOOInf.jar**

次のコマンドを実行して、OO フローをインストールおよびアップロードします。

```
java -jar -Xmx1024m "<temp>/HPOprOOInf90" -centralPassword <centralpassword>
```

注：コンテンツのインストールの詳細は、『HP Operations Orchestration Software Development Kit Guide』の「Installing the content」を参照してください。

HP OO Studio を使用して、次の場所から OO フローにアクセスできます。

```
../Library/Operations Management/..
```

3. BSM コンソールから、OO フローを CI にマッピングし、OO フローの入力変数を CI 属性にマッピングします。

BSM では、**[管理]** > **[統合]** > **[Operations Orchestration]** をクリックします。

OMi では、**[管理]** > **[操作コンソール]** > **[ランブックマッピング]** をクリックします。

OMi MP for Infrastructure のインストールの確認

この項では、Linux および Windows BSM サーバでの OMi MP for Infrastructure のインストールの確認について説明します。

OMi MP for Infrastructure のインストールは、次の手順で確認できます。

- 以下の場所で BSM GWS、BSM DPS、および BSM の一般サーバのログファイルのエラーをチェックします。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/log/mpinstall.log
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\log\mpinstall.log
```

- 次の場所をチェックします。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [セットアップ] > [コンテンツ パック] をクリックします。

[コンテンツ パック定義] ペインに、**OMi Management Pack for Infrastructure 1.10** が表示されている必要があります。

OMi では、[管理] > [セットアップと保守] > [コンテンツ パック] をクリックします。

[コンテンツ パック定義] ペインに、**OMi Management Pack for Infrastructure 1.10** が表示されている必要があります。

- BSM サーバにインストールされている OMi MP をリストするには、以下のコマンドを実行します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/bin/ContentManager.sh -username <BSMusername> -password <BSMpwd> -1
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\ContentManager.bat -username <BSMusername> -password <BSMpwd> -1
```

コマンドを実行すると、次のよう出力されます。

```
OMi_Management_Pack_For_Infrastructure (1.10)
```

注: ContentManager.bat または ContentManager.sh コマンドで、コンテンツ パックの名前とバージョンがリスト表示されます。

- OMi MP for Infrastructure のバージョン番号は 1.10 で、管理テンプレート、アスペクト、ポリシーテンプレートのバージョン番号は 1.00 です。

注: 次の場所に、BSM GWS と BSM DPS の両方の OMi ログファイルがあります。

Linux の場合: /opt/HP/BSM/log/EJBContainer/opr-configserver.log

Windows の場合: %TOPAZ_HOME%\log\EJBContainer\opr-configserver.log

第3章: 作業の開始

ここでは、OMi MP for Oracle Database を使用して作業を開始する手順を、順を追って説明します。

BSM コンソールでの作業の開始の詳細については、「[BSM コンソールでの作業の開始](#)」を参照してください。

OMi コンソールでの作業の開始の詳細については、「[OMi コンソールでの作業の開始](#)」を参照してください。

BSM コンソールでの作業の開始

ここでは、OMi MP for Infrastructure を使用して作業を開始する手順を、順を追って説明します。

タスク 1: BSM コンソールへのノードの追加

注: RTSM にノードがすでに存在する場合、このステップをスキップしてタスク 2 に進むことができます。

監視を始める前に、BSM コンソールにノードを追加する必要があります。

1. [オペレーション管理の管理] から [モニタ対象ノード] マネージャを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [セットアップ] > [モニタ対象ノード]

2. [ノード ビュー] ペインで [事前定義済みのノード フィルタ] > [モニタ対象ノード] をクリックし、* をクリックしてから、[Computer] > [Windows] または [UNIX] をクリックします。[モニタ対象ノードの新規作成] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. ノードの [プライマリ DNS 名]、[IP アドレス]、[オペレーティングシステム]、[プロセッサアーキテクチャ] を指定し、[OK] をクリックします。

新規に作成されたノードが CI インスタンスとして RTSM に保存されます。


注: Operations Agent が稼働するノードは、OMi サーバに対して有効にしてから、証明書を付与する必要があります。

タスク 2: インフラストラクチャ検出アスペクトのデプロイ



追加した管理対象ノード上の CI を検出するには、検出アスペクトをデプロイする必要があります。

1. 次の手順で [管理 テンプレート および アスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理 テンプレート および アスペクト]

2. [構成フォルダ] ペインで、**[構成フォルダ] > [インフラストラクチャ管理]** をクリックします。
3. [管理 テンプレート および アスペクト] ペインで対応するインフラストラクチャ検出アスペクトを右クリックし、 **[項目の割り当てとデプロイ]** をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。
4. **[構成アイテム]** タブで検出アスペクトをデプロイする CI をクリックし、**[次へ]** をクリックします。
5. **[必要なパラメータ]** タブで、値を持たない管理テンプレートの必須パラメータがすべて表示されます。
必要な値をすべて指定したら、**[次へ]** をクリックして **[すべてのパラメータ]** に進みます。

パラメータの値を変更するには、ダブルクリックするか、 をクリックします。

- a. リストのインスタンスパラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。
 - b. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
 - c. 従属パラメータを選択し、値を指定します。**[次へ]** をクリックします。
6. **[すべてのパラメータ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を変更できます。パラメータを編集するには、以下の手順を実行します。
 - a. パラメータをダブルクリックするか、リストで選択してから  をクリックします。
 - b. [パラメータの編集] ウィンドウが開きます。デフォルト値を変更して **[OK]** をクリックします。
 7. **[次へ]** をクリックします。
 8. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。**[次へ]** をクリックします。
 9. オプション: 割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスを外します。[割り当ておよびパラメータ] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
 10. **[完了]** をクリックします。

注:

- インフラストラクチャ検出アスペクトをデプロイすると、[割り当ておよびデプロイメント ジョブを作成しました] から始まるメッセージが表示されます。**[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [デプロイメント ジョブ]** を選択し、デプロイメント ジョブのステータスを確認します。
- VMware vSphere 仮想化、IBM Power、および Oracle Solaris ゾーン環境の監視については、「[OMi MP for Infrastructure を使った監視](#)」参照してください。

タスク3: 検出の確認

インフラストラクチャ検出アスペクトをデプロイした後、トップビューにCIが表示されていることを確認する必要があります。

トップビューのCIを表示するには、次の手順を実行します。

1. BSM コンソールで **[MyBSM]** をクリックします。
2. ドロップダウンリストから **[トップビュー]** を選択します。[トップビュー] ページが表示されます。
3. トップビュー ページで、**HACluster_Infrastructure**, **Sol_Zones_Infrastructure** または **Systems_Infrastructure** ビューを選択します。トップビューにCIが表示されています。

タスク4: インフラストラクチャ管理テンプレートおよびインフラストラクチャ検出アスペクトのデプロイ


Monitoring Automation for Composite Applications ライセンスを使用している場合、インフラストラクチャ管理テンプレートまたはインフラストラクチャアスペクトをCIにデプロイできます。インフラストラクチャ管理テンプレートのデプロイの詳細は、「[タスク4a: インフラストラクチャ管理テンプレートの特定とデプロイ](#)」を参照してください。

Monitoring Automation for Servers ライセンスを使用している場合、インフラストラクチャアスペクトをデプロイできます。インフラストラクチャアスペクトのデプロイの詳細は、「[タスク4b: インフラストラクチャアスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

タスク4a: インフラストラクチャ管理テンプレートの特定とデプロイ

CIがSiteScopeやDDMなどの他のソースによってすでに設定されていても、インフラストラクチャ検出アスペクトのデプロイは**必要**です。検出アスペクトのデプロイの詳細は、「[タスク2: インフラストラクチャ検出アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。



インフラストラクチャ管理テンプレートをCIにデプロイするには、次の手順を実行します。


1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。
[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]
2. [構成フォルダ] ペインで、**[構成フォルダ] > [インフラストラクチャ管理] > [インフラストラクチャ管理テンプレート]** をクリックします。
3. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインでデプロイする管理テンプレートをクリックし、 **[項目の割り当てとデプロイ]** をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。
4. **[構成アイテム]** タブで管理テンプレートを割り当てるCIをクリックし、**[次へ]** をクリックします。

5. **[必要なパラメータ]** タブで、値を持たない管理テンプレートの必須パラメータがすべて表示されます。

必要な値をすべて指定したら、**[次へ]**をクリックして**[すべてのパラメータ]**に進みます。

パラメータの値を変更するには、ダブルクリックするか、 をクリックします。

- a. リストのインスタンスパラメータを選択して、 をクリックします。**[パラメータの編集]** ダイアログボックスが開きます。
 - b. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
 - c. 従属パラメータを選択し、値を指定します。**[次へ]** をクリックします。
6. **[次へ]** をクリックして**[すべてのパラメータ]**に進みます。パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択して をクリックします。**[パラメータの編集]** ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

注: **[すべてのパラメータ]** ペインでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレートレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパートパラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパートパラメータを表示するには、 **[エキスパートパラメータの表示]** をクリックします。

7. **[次へ]** をクリックします。
8. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。**[次へ]** をクリックします。
9. オプション: **[構成オプション]** タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は**[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスを外します。**[割り当ておよび調整]** ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
10. **[完了]** をクリックします。

注: Operations Management の監視設定は、Management Pack とともにアップロードされるポリシーテンプレート、管理テンプレート、アスペクトのバージョンで自動的に更新されません。バージョンを更新するには、**[最新バージョンへの更新]** 機能を使用します。詳細については、BSM オンラインヘルプの管理テンプレートの構成の項を参照してください。

OMi MP for Infrastructure を使用したインフラストラクチャリソースの監視の詳細は、OMi Management Pack for Infrastructure オンラインヘルプまたはオンラインヘルプのPDF版を参照してください。


タスク 4b: インフラストラクチャアスペクトのデプロイ

CI が SiteScope や DDM などの他のソースによってすでに設定されていても、インフラストラクチャ検出アスペクトのデプロイは**必要**です。検出アスペクトのデプロイの詳細は、[「タスク 2: インフラストラクチャ検出アスペクトのデプロイ」](#)を参照してください。

注: Monitoring Automation for Composite Applications ライセンスを使用しており、すでにインフラストラクチャ管理テンプレートを CI に割り当てている場合、このタスクをスキップできます。



1. 次の手順で [管理テンプレートおよびアспект] ペインを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアспект]

2. [構成フォルダ] ペインで、[構成フォルダ] > [インフラストラクチャ管理] を選択します。
3. [管理テンプレートおよびアспект] ペインでデプロイするアспектを選択し、 [項目の割り当てとデプロイ] をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。
4. [構成アイテム] タブでアспектを割り当てる CI を選択し、[次へ] をクリックします。
5. [必要なパラメータ] タブで、値を持たない管理テンプレートの必須パラメータがすべて表示されます。

必要な値をすべて指定したら、[次へ] をクリックして [すべてのパラメータ] に進みます。

パラメータの値を変更するには、ダブルクリックするか、 をクリックします。

- a. リストのインスタンスパラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。
 - b. [値] をクリックして値を指定し、[OK] をクリックします。
 - c. 従属パラメータを選択し、値を指定します。[次へ] をクリックします。
6. [すべてのパラメータ] タブでは、パラメータのデフォルト値を変更できます。パラメータを編集するには、以下の手順を実行します。
 - a. パラメータをダブルクリックするか、リストで選択してから  をクリックします。
 - b. [パラメータの編集] ウィンドウが開きます。デフォルト値を変更して [OK] をクリックします。
 7. オプション: [構成オプション] タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は [割り当てオブジェクトの有効化] チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] マネージャを使用して、後で割り当てを有効化できます。
 8. [完了] をクリックします。

OMi コンソールでの作業の開始

ここでは、OMi MP for Infrastructure を使用して作業を開始する手順を、順を追って説明します。

タスク1: OMi コンソールへのノードの追加

注: ランタイム サービス モデル (RTSM) にノードがすでに存在する場合、この手順をスキップしてタスク2に進むことができます。

監視を始める前に、OMi コンソールにノードを追加する必要があります。

1. [管理] からモニタされるノードを開きます。

[管理] > [セットアップと保守] > [モニタ対象ノード]

2. [ノード ビュー] ペインで [事前定義済みのノード フィルタ] > [モニタ対象ノード] をクリックし、* をクリックしてから、[Computer] > [Windows] または [UNIX] をクリックします。[モニタ対象ノードの新規作成] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. ノードの [プライマリ DNS 名]、[IP アドレス]、[オペレーティングシステム]、[プロセッサ アーキテクチャ] を指定し、[OK] をクリックします。

新規に作成されたノードが CI インスタンスとして RTSM に保存されます。


注: Operations Agent が稼働するノードは、OMi サーバに対して有効にしてから、証明書を付与する必要があります。

タスク2: インフラストラクチャ検出アスペクトのデプロイ

追加した管理対象ノード上の CI を検出するには、検出アスペクトをデプロイする必要があります。



1. 次の手順で [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト]

2. [構成フォルダ] ペインで、[構成フォルダ] > [インフラストラクチャ管理テンプレート] をクリックします。
3. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインで対応するインフラストラクチャ検出アスペクトを右クリックし、 [項目の割り当てとデプロイ] をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。
4. [構成アイテム] タブで検出アスペクトをデプロイする CI をクリックし、[次へ] をクリックします。
5. [必要なパラメータ] タブで、値を持たない管理テンプレートの必須パラメータがすべて表示されます。

必要な値をすべて指定したら、[次へ] をクリックして [パラメータ サマリ] に進みます。

パラメータの値を変更するには、ダブルクリックするか、 をクリックします。

- a. リストのインスタンスパラメータを選択して、をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。
 - b. [値] をクリックして値を指定し、[OK] をクリックします。
 - c. 従属パラメータを選択し、値を指定します。[次へ] をクリックします。
6. [パラメータ サマリ] タブでは、パラメータのデフォルト値を変更できます。パラメータを編集するには、以下の手順を実行します。
- a. パラメータをダブルクリックするか、リストで選択してから  をクリックします。
 - b. [パラメータの編集] ウィンドウが開きます。デフォルト値を変更して [OK] をクリックします。
[次へ] をクリックします。
7. [値] をクリックして値を指定し、[OK] をクリックします。[次へ] をクリックします。
8. オプション: 割り当てを直ちに有効化しない場合は、[割り当ての有効化] チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
9. [完了] をクリックします。

注:

- インフラストラクチャ検出アスペクトをデプロイすると、[割り当ておよびデプロイメント ジョブを作成しました] から始まるメッセージが表示されます。デプロイメント ジョブのステータスを確認するには、[管理] > [監視] > [デプロイメント ジョブ] を選択します。
- VMware vSphere 仮想化、IBM Power、および Oracle Solaris ゾーン環境の監視については、『OMi MP for Infrastructure インストールガイド』の「OMi MP for Infrastructure を使った監視」を参照してください。

タスク3: 検出の確認

インフラストラクチャ検出アスペクトをデプロイした後、トップビューにCIが表示されていることを確認する必要があります。

[360° View] にCIを表示するには、次の手順を実行します。

1. OMi コンソールで、[ワークスペース] > [ダッシュボード] > [360° View] をクリックします。
2. ドロップダウンリストから [360° View] を選択します。[360° View] ページが表示されます。
3. [360° View] ページで、**HACluster_Infrastructure**、**Sol_Zones_Infrastructure** または **Systems_Infrastructure** ビューを選択します。[360° View] にCIが表示されています。

タスク4: インフラストラクチャ管理テンプレートおよびインフラストラクチャ検出アスペクトのデプロイ

Monitoring Automation for Composite Applications ライセンスを使用している場合、インフラストラクチャ管理テンプレートまたはインフラストラクチャアスペクトをCIにデプロイできます。インフラストラクチャ管理テンプレートのデプロイの詳細は、「[タスク 4a: インフラストラクチャ管理テンプレートの特定とデプロイ](#)」を参照してください。インフラストラクチャアスペクトのデプロイの詳細は、「[タスク 4b: インフラストラクチャアスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

Monitoring Automation for Servers ライセンスを使用している場合、インフラストラクチャアスペクトをデプロイできます。インフラストラクチャアスペクトのデプロイの詳細は、「[タスク 4b: インフラストラクチャアスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。


タスク 4a: インフラストラクチャ管理テンプレートの特定とデプロイ

CI が SiteScope や DDM などの他のソースによってすでに設定されていても、インフラストラクチャ検出アスペクトのデプロイは必要です。検出アスペクトのデプロイの詳細は、「[タスク 2: インフラストラクチャ検出アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

インフラストラクチャ管理テンプレートをCIにデプロイするには、次の手順を実行します。


1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。


[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト]


2. [構成フォルダ] ペインで、[構成フォルダ] > [インフラストラクチャ管理] > [インフラストラクチャ管理テンプレート] をクリックします。
3. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインでデプロイする管理テンプレートをクリックし、 [項目の割り当てとデプロイ] をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。
4. [構成アイテム] タブで管理テンプレートを割り当てるCIをクリックし、[次へ] をクリックします。
5. [必要なパラメータ] タブで、値を持たない管理テンプレートの必須パラメータがすべて表示されます。

必要な値をすべて指定したら、[次へ] をクリックして [パラメータ サマリ] に進みます。

パラメータの値を変更するには、ダブルクリックするか、 をクリックします。

- a. リストのインスタンスパラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。
 - b. [値] をクリックして値を指定し、[OK] をクリックします。
 - c. 従属パラメータを選択し、値を指定します。[次へ] をクリックします。
6. [次へ] をクリックして [パラメータ サマリ] に進みます。パラメータのデフォルト値を変更するには、パラ

メータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。[値] をクリックして値を指定し、[OK] をクリックします。

注: [パラメータ サマリ] タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレートレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパートパラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパートパラメータを表示するには、 [エキスパートパラメータの表示] をクリックします。

7. [次へ] をクリックします。
8. [値] をクリックして値を指定し、[OK] をクリックします。[次へ] をクリックします。
9. オプション: [構成オプション] タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は [割り当ての有効化] チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
10. [完了] をクリックします。


注: Operations Management の監視設定は、Management Pack とともにアップロードされるポリシーテンプレート、管理テンプレート、アスペクトのバージョンで自動的に更新されません。バージョンを更新するには、[最新バージョンへの更新] 機能を使用します。詳細については、OMi オンラインヘルプの管理テンプレートの構成の項を参照してください。




OMi MP for Infrastructure を使用したインフラストラクチャリソースの監視の詳細は、OMi Management Pack for Infrastructure オンラインヘルプまたはオンラインヘルプのPDF版を参照してください。

タスク 4b: インフラストラクチャアスペクトのデプロイ

CI が SiteScope や DDM などの他のソースによってすでに設定されていても、インフラストラクチャ検出アスペクトのデプロイは必要です。検出アスペクトのデプロイの詳細は、[「タスク 2: インフラストラクチャ検出アスペクトのデプロイ」](#)を参照してください。

注: **Monitoring Automation for Composite Applications** ライセンスを使用しており、すでにインフラストラクチャ管理テンプレートを CI に割り当てている場合、このタスクをスキップできます。

1. 次の手順で [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。
[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト]
2. [構成フォルダ] ペインで、[構成フォルダ] > [インフラストラクチャ管理] > [インフラストラクチャ管理テンプレート] をクリックします。
3. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインでデプロイするアスペクトを選択し、 [項目の割り当てとデプロイ] をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。

4. **[構成アイテム]** タブでアスペクトを割り当てる CI を選択し、**[次へ]** をクリックします。
5. **[必要なパラメータ]** タブで、値を持たない管理テンプレートの必須パラメータがすべて表示されます。
必要な値をすべて指定したら、**[次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** に進みます。
パラメータの値を変更するには、ダブルクリックするか、 をクリックします。
 - a. リストのインスタンスパラメータを選択して、 をクリックします。**[パラメータの編集]** ダイアログボックスが開きます。
 - b. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
 - c. 従属パラメータを選択し、値を指定します。**[次へ]** をクリックします。
6. **[パラメータ サマリ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を変更できます。パラメータを編集するには、以下の手順を実行します。
 - a. パラメータをダブルクリックするか、リストで選択してから  をクリックします。
 - b. **[パラメータの編集]** ウィンドウが開きます。デフォルト値を変更して **[OK]** をクリックします。
7. (オプション)**[構成オプション]** タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は **[割り当ての有効化]** チェックボックスを外します。**[割り当ておよび調整]** ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
8. **[完了]** をクリックします。

第4章: OMi MP for Infrastructure を使った監視

HP Operations Agent 仮想アプライアンスを使用した VMware vSphere 仮想化環境の監視

次のチェックリストは、OMi MP for Infrastructure を使用して監視を開始する前に実行しておく必要のあるタスクをまとめたものです。

完了 (はい/いいえ)	タスク
	VMware vSphere 監視用の HP Operations Agent 仮想アプライアンスのセットアップが完了していることを確認します。
	HP Operations Agent が次のコマンドを使用して LOGICAL クラスのデータを収集しているかどうかを確認します。 <ul style="list-style-type: none">• /opt/OV/bin/ovcodutil -obj• /opt/OV/bin/ovcodutil -dumpds SCOPE grep BYLS BYLS_* のメトリック値が出力されます。
	HP Operations Agent 仮想アプライアンスノードが BSM コンソールに追加されていることを確認します。 『Monitoring Automation for HP Operations Manager i Installation Guide』の「Connecting an HP Operations Agent to a BSM Server」の章を参照してください。
	OMi MP for Infrastructure がゲートウェイと DPS の両方にインストールされているかどうかを確認します。 詳細については、「 インストールメディア 」を参照してください。
	HP Operations Agent 仮想アプライアンスノードに 仮想インフラストラクチャ検出アспект をデプロイします。構成タスクを開始する前に、すべての CI と関係が RTSM に同期されていることを確認します。
	HP Operations Agent 仮想アプライアンスノードに属する hp_operations_agent CI の特殊な属性 Proxy_role が値 "VA" で更新されていることを確認します。 これは、他のノード CI の中から仮想アプライアンスノードを識別する際に重要になります。
	VA_Infrastructure ビューに CI と関係が読み込まれるかどうかを確認します。 Is_Data_Collector 関係は、hp_operations_agent CI と VM または ESX サーバ/vCenter との間に作成され、VM および ESX サーバへのアспектのデプロイに使用されます。

IBM Power 仮想化環境の監視

次のチェックリストは、OMi MP for Infrastructure を使用して IBM Power 仮想化環境の監視を始める前に実行しておく必要のあるタスクをまとめたものです。

完了 (はい/いいえ)	タスク
	<p>フレーム内の監視 LPAR の識別が完了していることを確認します。</p>
	<p>監視 LPAR が次のコマンドを使用して LOGICAL クラスのデータを収集しているかどうかを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • /usr/lpp/OV/bin/ovcodutil -obj • /usr/lpp/bin/ovcodutil -dumpds SCOPE grep BYLS <p>BYLS_* のメトリック値が出力されます。</p> <p>すべての監視対象 LPAR が存在する AIX を監視する場合は、『HP Operations Agent User Guide』の「Configuring Data Collection for Frames」の章を参照してください。</p> <p>次のコマンドを使用して、フレームデータが収集されているかどうかを確認します。</p> <pre>/usr/lpp/OV/bin/ovcodutil -dumpds SCOPE grep FRAME</pre>
	<p>監視 LPAR が BSM コンソールに追加されていることを確認します。</p>
	<p>次の前提条件が追加されていることを確認します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [管理] > [RTSM 管理] > [CI タイプ マネージャ] > [CI タイプ] > [システム タイプ マネージャ] に移動します。 [システム タイプ マネージャ] ダイアログボックスが表示されます。 2. product_name_enum をダブルクリックし、[適用] をクリックします。 更新リスト定義が表示されます。 3. ibm_power_hypervisor をリストに追加して、[OK] をクリックします。
	<p>OMi MP for Infrastructure がゲートウェイと DPS の両方にインストールされているかどうかを確認します。</p> <p>詳細については、「インストールメディア」を参照してください。</p>
	<p>仮想インフラストラクチャ検出アспектを監視 LPAR にデプロイします。構成タスクを開始する前に、すべての CI と関係が RTSM に同期されていることを確認します。</p>

	<p>IBMHMC_Deployment ビューに CI と関係が読み込まれるかどうかを確認します。</p> <p>Is_Data_Collector 関係は、IBM HMC に対する監視 LPAR、LPAR、および IBM Frame の間に作成されます。</p>
--	---

Oracle Solaris ゾーン環境の監視

次のチェックリストは、OMi MP for Infrastructure を使用して Oracle Solaris ゾーンの監視を開始する前に実行しておく必要のあるタスクをまとめたものです。

完了 (はい/いいえ)	タスク
	<p>次のコマンドを使用して、Oracle Solaris グローバルゾーンが LOGICAL クラスのデータを収集していることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>/opt/OV/bin/ovcodutil -obj</code> • <code>/opt/OV/bin/ovcodutil -dumpds SCOPE grep BYLS</code> <p>BYLS_* のメトリック値が出力されます。</p>
	<p>Oracle Solaris グローバルゾーンが BSM コンソールに追加されていることを確認します。BSM コンソールへのノードの追加の詳細は、「作業の開始」を参照してください。</p>
	<p>OMi MP for Infrastructure がゲートウェイと DPS の両方にインストールされているかどうかを確認します。</p> <p>詳細については、「インストールメディア」を参照してください。</p>
	<p>HP Operations Agent 仮想アプライアンスノードに 仮想インフラストラクチャ検出アспект をデプロイします。構成タスクを開始する前に、すべての CI と関係が RTSM に同期されていることを確認します。</p>
	<p>Sol_Zones_Infrastructure ビューに CI と関係が読み込まれるかどうかを確認します。</p>

注:

- OMi MP for Infrastructure 1.10 では、Operations Agent によって監視される同じ CI タイプ (CIT) の CI の複数のインスタンスを監視できます。複数のインスタンスを異なるパラメータ値を使用して監視することはできません。
- 同じ Operations Agent によって監視される同じ CIT の複数の CI インスタンスにパラメータ値の異なる管理テンプレートやアспектをデプロイした場合、最後にデプロイされたパラメータ値によって以前にデプロイされたパラメータ値が上書きされます。

ドキュメントのフィードバックを送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールで[ドキュメント制作チーム](#)までご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

Feedback on インストールガイド (OMi Management Pack for Infrastructure 1.10)

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信]をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、docfeedback@hp.com宛にお送りください。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。